

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-141	14-302	慶應義塾大学
題名(原題/訳)		
Who needs inpatient detox? Development and implementation of a hospitalist protocol for the evaluation of patients for alcohol detoxification. 誰が入院患者解毒を必要とするのか？ アルコール解毒のための患者の評価のためのホスピタリスト（病院総合医）プロトコルの開発と実行		
執筆者		
Stephens JR, Liles EA, Dancel R, Gilchrist M, Kirsch J, DeWalt DA		
掲載誌		
J Gen Intern Med. 2014 Apr;29(4):587-93. doi: 10.1007/s11606-013-2751-3. Epub 2014 Jan 7.		
キーワード	PMID	
アルコール解毒、アルコール離脱症状、ホスピタリスト	24395104	
要旨		
<p>背景： アルコール解毒を求めている患者をケアしている臨床医は、根拠に基づく治療と高い再犯率を防ぐためのガイドラインの欠如を含む多くの課題に直面する。</p> <p>目的： 解毒を求めているどのアルコール依存的な患者が入院治療または外来治療を必要とするかを決定するために標準化されたプロトコルを展開して、研究するために、プロトコルは実施である。 [デザイン] 特別なタスクフォースによる最善の証拠のレビューと標準化されたプロトコルの以降の作成。最初のプロトコル実施の前向きな観察評価。 [参加者] アルコール解毒のために訪れた患者。 [介入] アルコール解毒を要請している患者の評価と治療のためのプロトコルの開発と実行。</p> <p>主な手段： アルコールによると診断され(DRG)た一ヶ月当たりの入院数、30 日の再入院率と入院期間の、全てがプロトコル実施の前後に測定された。</p> <p>結果： 我々は、この集団における以前の 1 つのプロトコルとともに、外来患者解毒に対して選択に入院患者を知らせるために 1 件の無作為臨床試験と 3 つのコホート研究を同定し、組織のプロトコルを構築するために、そのデータを臨床経験と結合した。プロトコル実施の後、アルコール関連の入院の1ヵ月当たりの平均数は 15.9 であった。そして、実施 ($p = 0.037$) の前には 1 ヶ月につき 18.9 であった。再入院率または入院期間については差がなかった。</p> <p>結論： プロトコルの作成と利用は、アルコールから解毒を必要としている患者のケアの標準化につながった。プロトコル実施の最初の評価では、入院数を減少させた。</p>		